『過去から現在、そして未来に繋がる絆』

平成８年度六瀬中学校卒業生　丸橋　慎介

先日中学校の閉校に伴い、当時の思い出やエピソードを募集しているという連絡を同級生より受けました。当時のことを振り返り、熱い想いを語らずにはいられなくなり、当時の仲間と話をして、私が平成８年度卒業生を代表して、その想いを語ることとしました。

私たちが六瀬中にいた平成６年～平成８年度は、バブル景気も終息し、阪神･淡路大震災という大災害もあった時代で、制服は当時でも珍しい学ランとセーラー服でした。当然携帯電話も普及していなく、友達に用事があれば、家の電話に架けていた時代です。

そんな時代に３年間過ごした私たちの１番声の多かった思い出は、体育大会や文化祭の思い出でした。今思い出しても、私たちは、行事に熱い学年だったと思います。体育大会のむかで競争では、特に皆必死で、朝早くから練習し、放課後も練習し、中には昼休みまで返上しようとした人もいました。その熱心さゆえに、先輩をも凌駕したクラスがあったり、最後の体育大会では、負けて泣き出す人までいたことも覚えています。

その体育大会の熱も冷めぬまま、文化祭と移行し、こちらも合唱、演劇と各クラス必死になっていました。むかえた３年の文化祭、１組『あゝ野麦峠』、２組『ロミオとジュリエット』、そして３組は、『夕鶴』とどれも名作。準備・段取りした小道具、大道具、照明、そして音響、どれをとっても、優劣なし。女優顔負けの迫真の演技まで飛び交い、審査する側も優劣つけれなく、前代未聞の３クラス皆グランプリという結果になりました。

行事に一生懸命な私たちの学年でしたが、授業はもちろんのこと、クラブ活動にもその熱は注がれていました。授業では温厚な先生が、クラブ活動では人が変わり、そんな先生方の指導の下、クラブ活動にもいろんな思い出がありました。クラブ活動が楽し過ぎて、下校時間を守らなくて、活動停止になったという思い出、試合に負けて、全員丸坊主にした思い出などなど、今も皆当時のことを昨日のことのように語ってくれました。

楽しい思い出たくさんの私たちでしたが、いいことばかりではありませんでした。小学校から中学校卒業までの間、大切な仲間を事故と病気で２人も失いました。しかし、皆その悲しみと向き合い、仲間を思いやる心をそれぞれに持つことができ、その絆ゆえに私たちは、今も毎年同窓会をしています。家が遠方で来られない人や土日仕事をどうしても休めない人、子どもが小さくて家を空けられない人など個々に事情があるにせよ、毎年開催していてもそれなりの人数が集まるのは、私たちの最大の強みと考えています。

たとえ、六瀬中学校が閉校しようとも、世界中に未曾有のウィルスが蔓延しようとも、亡くなった２人が結びつけてくれている絆、中学校の思い出を私たちは、いつまでも大切にしていきます。空の上から安心して見ていて下さい。そして今日に至るまで、ご指導ご鞭撻を下さった六瀬中学校の先生方、いろんな関係者の方々、本当にありがとうございました。六瀬中学校閉校となりましても、変わらぬご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

思い出の写真

　卒業 20 周年記念同窓会の集合写真
卒業して 20 年以上経っても皆いい意味で変わっていません

